

伊勢おもてなしヘルパー

日本一のバリアフリー観光地をめざす伊勢市は、平成25年の式年遷宮の頃より神宮参拝のサポート要請が急増してきたことを機に、産官学関係6団体による「伊勢おもてなしヘルパー」を発足。高齢や障がいのある方々でも安心して参拝していただけるよう、車いすでの介助やお手伝いをしています。



「伊勢おもてなしヘルパー推進会議」の皆さん。
野口 あゆみさん(中央)

お問い合わせ
「伊勢おもてなしヘルパー推進会議 事務局」
(NPO法人伊勢志摩バリアフリーツアースセンター内)
鳥羽市鳥羽1丁目2383-13
鳥羽一番街1階
TEL 0599-21-0550
e-mail
info@ise-omotenashi.jp

三重県内で活躍するグループを紹介する「いま、グループネット」。今回は、「伊勢おもてなしヘルパー」を紹介します。どなたにも安心して伊勢神宮内宮参拝をしていただけるようお手伝いする有償ボランティア団体の事務局スタッフ、野口 あゆみさんにお話を伺いました。

伊勢おもてなしヘルパーとはどんなグループでしょうか。

野口：平成25(2013)年の式年遷宮の時、参拝のサポート依頼が急増したのを機に、今後も持続可能なサービスを提供できるよう伊勢市、伊勢市観光協会、伊勢商工会議所、皇學館大学、

伊勢おはらい町会議、伊勢志摩バリアフリーツアースセンターの産官学6団体がおもてなしヘルパー推進会議を立ち上げました。そして有償ボランティアとして活躍したいという方を広く募集、平成28(2016)年には座学2回、実地2回のヘルパー研修を実施しました。その全過程を終了した80名のうち主に約50名の方々がおもてなしヘルパーとして日々活躍しておられます。年代も10代から70代と幅広く伊勢を中心に県内はもちろん、県外からも参加されています。バリアフリー観光をおもてなしの一つとして、人と工夫によるおもてなしで伊勢の魅力アップさせるこ

とを目的としています。
——おもてなしヘルパーは、どんなことをするのですか。
野口：主に身体状況や高齢などにより伊勢神宮内宮の参拝が困難な方への「車いす介助」や「階段を上がるお手伝い」また「参道での介助や見守り」などを行って正宮への参拝の実現をお助けしています。玉砂利の参道では、走行しやすい電動車いすを利用していただきながら、傍らに寄り添い介助するほか、正宮前の石段では、4人1組で車いすごと持ち上げ、正宮まで上ります。また身体的な介助だけでなく、神宮内の見どころの説明や参拝の仕方など、ヘルパーとのおしゃべりも楽しい旅の思い

出の一つです。また来たいと思っただけできるよう、温かいおもてなしを心がけています。

利用された反響はどうでしょうか。

野口：それはもう、熱い感謝の思いが書かれたお手紙やメールをたくさんいただきます。やはり正宮まで上がったの参拝は格別なもの、半ば諦めていたその参拝ができたという満足感、そして一緒に上れたことを喜ばれるご家族、その様子を見てヘルパーさんたち

の胸にも感動がこみ上げ、ますますやりがいを感じられているようです。
——ありがとうございます。

お話を伺った野口さんはじめ事務局スタッフが、お客さまとおもてなしヘルパー間の連絡やコーディネートをする窓口になっています。お客さまから今まで感謝の手紙をたくさんいただいたうえ、有償のサービスにも関わらずトラブルやお叱りの言葉は一度もないとは素晴らしいことですね。

を伺っている
と皆さん伊勢

インタビュー
……末永薫



玉砂利の参道を電動車いすで無理なく進む※



4人で力を合わせ正宮(しょうぐう)に上がる※



全国から寄せられた熱いお礼の手紙※



おもてなしヘルパーに認定された皆さん(平成28年 認定式)※

※印の写真は取材先から提供していただきました